

知って安心

あなたのくすりと健康

聞いて安心

第95号

- 薬剤師の外来業務について…横浜市立大学附属病院 薬剤師 勝亦 秀樹
- 通院して行くがん化学療法…東海大学医学部附属病院 薬剤部薬剤科 眞家 わか菜
- 一緒に飲んで大丈夫？ お薬の飲み合わせに注意しましょう…横須賀共済病院 土井 路子

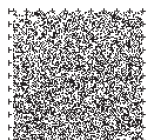


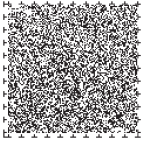
<表紙写真> くすり Get the Answers かながわ 推進委員会
(くすりと健康すこやかフェア開催時の写真)

毎年厚生労働省が定める「薬と健康の週間」に合わせて、5団体共催で県民向けのイベントを開催しています。

神奈川県病院薬剤師会では、正しい知識を広く県民の皆様へ浸透させることを目的に、「おくすり相談」を実施しています。

私たちは、一般市民に対して医薬品や健康に関する正しい知識の普及と啓発を目的として小冊子を発行しています。小冊子には、音声コードが印刷されており、音声読みあげアプリ「Uni-Voice」と活字文書読みあげ装置の両方で使用できます。ご活用いただければ幸いです。





薬剤師の外来業務について

“入院経験がなく、病院に行くのは専ら外来のみ”という方にとっては、これまで病院で薬剤師と接したことがないという方も少なからずいるのではないのでしょうか。

しかし近年、薬物治療の高度化や、入院が決まっている方について事前に必要な情報を収集・提供する施設も増えてきており、外来患者さんを対象に病院薬剤師が面談を行うことが多くなってきています（「薬剤師外来」と呼ばれることがあります）。

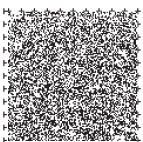
表に、薬剤師が行っている外来業務の一例を紹介します。

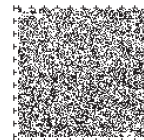
代表的な領域	主な対象・実施内容
がん	【対象】 外来で抗がん剤治療を受ける患者 【内容】 薬物治療の内容（薬剤、副作用等）の説明、 薬剤の使用状況や副作用発現状況の確認・評価
周術期（手術前）	【対象】 手術予定のある患者 【内容】 使用中薬剤、薬剤アレルギー・副作用歴の確認、 手術前に中止すべき薬剤・健康食品等の確認および説明
妊婦・授乳婦	【対象】 妊婦、妊娠を希望する女性 【内容】 赤ちゃん（胎児）への薬剤の影響に関する相談
喘息・慢性閉塞性肺疾患	【対象】 吸入薬を使用する喘息・慢性閉塞性肺疾患の患者 【内容】 薬物治療と吸入薬の説明、 吸入手技の指導と評価、使用状況の確認
HIV 感染症	【対象】 HIV 感染症の患者 【内容】 飲み合わせを考慮した処方設計、 薬物治療の説明、服薬状況・副作用発現状況の確認

薬剤師の外来業務では、それぞれの領域に精通した薬剤師が担当する必要があると、主に専門・認定薬剤師などが活躍しています（専門・認定薬剤師の詳細は、「あなたのくすりと健康 第78号」をご覧ください）。

多くの病院薬剤師が外来業務への展開を検討し、日々研鑽しております。これからの薬剤師のさらなる活躍にご期待ください。

横浜市立大学附属病院 薬剤部 勝亦 秀樹





通院して行うがん化学療法

がん化学療法は、有効な治療方法が多く確立され、より安全に治療を受けられる時代となってきました。今日においては、抗がん薬や副作用を和らげる薬の進歩により、入院治療だけでなく、通院してがん化学療法をうける外来診療へ移行しています。病院における外来がん化学療法の一般的な治療の流れを説明します。

1. 血液検査を受けます。

①末梢血液一般

一部の抗がん薬では副作用として骨髄抑制があります。骨髄抑制は、赤血球減少による貧血や白血球・好中球の減少による免疫力の低下、血小板減少による出血傾向などが現れます。治療開始前に血液検査を行い、検査結果を経時的に確認し、骨髄抑制が現れていないか確認します。

②生化学検査

抗がん薬は肝臓や腎臓で分解されるため、これらの臓器は影響を受けやすくなります。そのため肝臓や腎臓をチェックします。また脱水や食欲の低下により体内の電解質のバランスが崩れることもあります。例えば、K（カリウム）の上昇やMg（マグネシウム）の低下は心臓機能に異常をきたす可能性があり、輸液や内服薬で補給することが必要です。

2. 医師による診察を受けます。

検査結果をふまえ、体調の確認や体重の変動がないか、また副作用の症状についてモニタリングを行い、治療を行うか総合的に判断します。

3. 外来化学療法室にて受付をします。

①看護師により体調や副作用の確認等を行います。

②医師が治療の決定を行うと、薬剤師は治療内容とカルテを基に抗がん薬の用量や検査結果などを薬学的に監査し、使用する点滴を無菌調製します。状況に応じて副作用に対する治療の検討も行います。

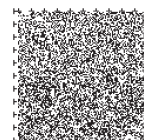
4. 化学療法が開始されます。

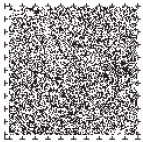
①点滴が開始され、点滴中は看護師により状態の観察・ケアが行われます。

②必要に応じて薬剤師による薬の説明を行います。投与されてる薬や治療内容（レジメン）、出現すると予測される副作用の予防法や対処法などを説明します。

このように医師、看護師、薬剤師など多職種で連携し、患者や家族にとってより良い医療を提供できるようチームで協働しています。現在、日本人の約6割が生涯で一度はがんに罹患する時代と言われています。がんとの向き合い方の選択肢の一つとして、通院して治療を行うことができる外来診療があり、日常生活に寄り添った医療の提供に貢献しています。

東海大学医学部付属病院 薬剤部薬剤科 眞家 わか菜





一緒に飲んで大丈夫？ お薬の飲み合わせに注意しましょう

何種類かのお薬を一緒に飲んでいる方はいらっしゃいますか？

お薬の中には一緒に飲むと、効果が強くなったり弱くなったり、また低血糖やけいれんなど副作用が出やすくなったりと困った飲み合わせがあります。お薬の飲み合わせで起こる困った作用を「相互作用」と呼びます。

お薬の相互作用にはどのようなものがあるか、いくつか紹介します。

①相加効果

同じような効果のお薬を2つ飲んで、効果が $1 + 1 = 2$ に増えること。

②相乗効果

同じような効果のお薬を2つ飲んで、効果が $1 + 1$ が3にも4にも強くなること。

③拮抗作用

相反する作用のお薬や、お互いの働きを邪魔するお薬を一緒に飲んで、効果が弱まってしまうこと。

相互作用は、お薬同士だけでなく食品やサプリメントで起こる場合もあります。

お薬が変わった時や新しいお薬が加わった時には、薬剤師に確認しましょう。

相互作用を確認するには、「おくすり手帳」が便利です。複数の医療機関から処方を受けている場合も、「おくすり手帳」は医療機関によって分けたりせずに、1冊にまとめておきましょう。また、飲んでいるサプリメントがあれば、その名前も書いておきましょう。

飲んでいるお薬がしっかり効果を発揮できるように、相互作用に気を配ってみてください。

横須賀共済病院 土井 路子

第18回かながわ薬剤師学術大会 県民公開講座 開催のお知らせ

「ロボットの可能性は無限（働く場/役割/その将来）」
～ロボットは我々の健康生活をどのように変えるか？～

<講師> 佐藤 知正 東京大学名誉教授

入場無料

<日時> 令和2年1月12日(日) 13:15～14:15

<場所> パシフィコ横浜 会議センター 1階メインホール
(横浜市西区みなとみらい1-1-1)

「お薬相談」「健康測定」も無料で実施いたします。是非ご参加ください。

《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。

《発行》公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 GTA委員会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

ホームページ <https://www.kshp.jp/>

